岐蘓仇討

文化巳新刻

勝川春扇画

十返舎一九著

新吉原 丁子屋 太郎兵衛 梓

へ13
3714

新版

木曾道中記

五十三次入

十返舎一九著

勝川春扇画

書肆坊甘泉堂

訂本

岐蘓の死怨

関野太郎誕

入主六冊 合一冊

ベ 3714 巻

怪異防憂惱
山西兵九郎

牢正方疫病
千篇一
東連之進

望用
何愁
晩求
名漸
得寧
寡婦屋佐
かしこや
雪一ニ羽
秋の夕
玉浦妹の房
笑情玉浦

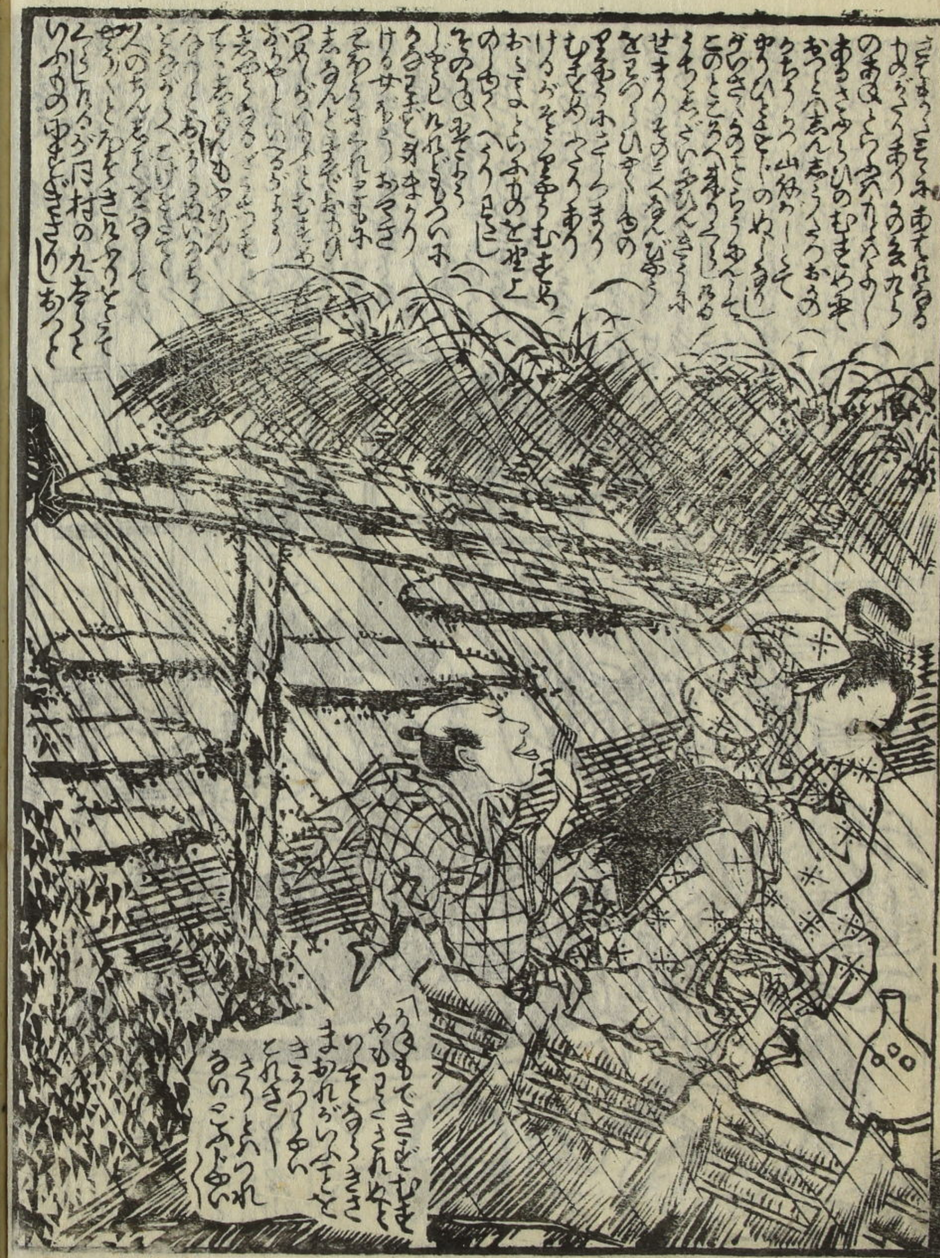
愛甘泉堂上梓

怪談

本曾街道細久手澤より御嶽へかゝる山道を遠ふ小
幕本らゝる所あり古ふ往昔鬼の住る所にて
その奥深きことたとへ方なき岩穴あり是則
山賊の首領関の左衛門といひしものゝ住る所
なり〳〵こゝ他人を又鬼の子孫とも云ふ御嶽を
伏見へつゞく捕縄をとらんとすれば此の関の
左衛門害せゝれて手首を捕よおさめ都に送る
なるこの首次第に大きくなりて数人のちからも
叶ひがたく変よ堪こて塚を築く魂の首塚そこれ
捕縄を拾ふるあるとて捕縄をとらんとて抑此方
俗性と称るよ勢列沿廉の何某ぞ虎ふて
往時汲上の田村丸此山の鬼賊を追四方の仇
ナ耶法らんを伐滅さは鬼関明神よ祈へ

往をさんげ〳〵業を改めて敬ふよりてその罪を
赦免せゝ給ふ神仏よりこゝ後よ通力をもつて仏来
の寡婦帰るよ通じ一子を能けゝ四子沿を乗れ
林ちよ生長〳〵ちゝ先て人界よ父母〳〵ゝ血
縁連絡〳〵孫五今のこゝ所ふ住ひてやうゝ
岩組の西端をうけつぎ各国よ横行〳〵ちゝ
少乗来の岩屋ゝ移住〳〵賞のこゝ所〳〵各業
強多ゝとおびやゝ金銀財物を金庫ふ有る
石自の行状を編て後仇のものゝを著〳〵
懲悪陰善の天誅をこゝちびゝん〳〵

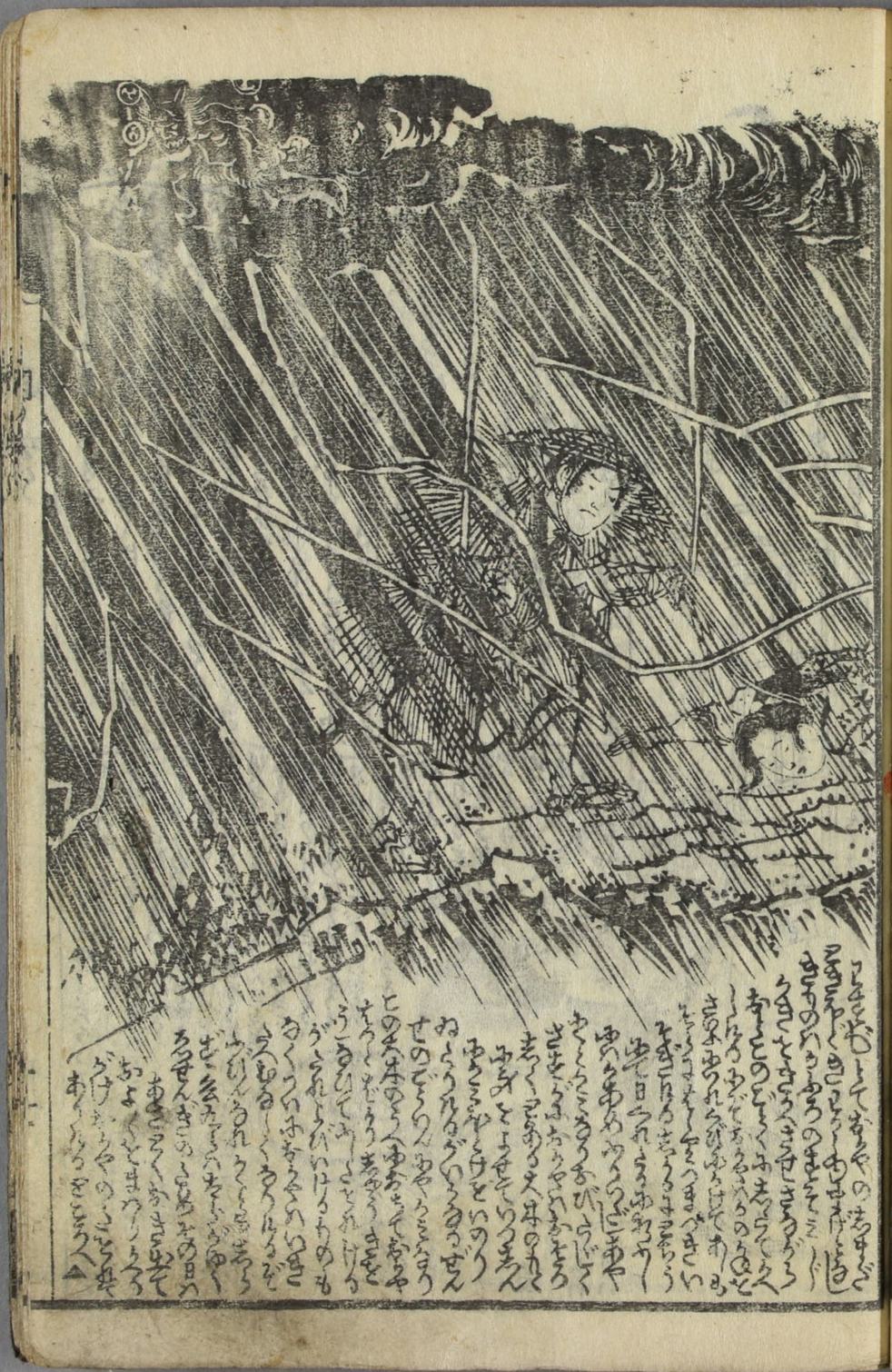
夢の花

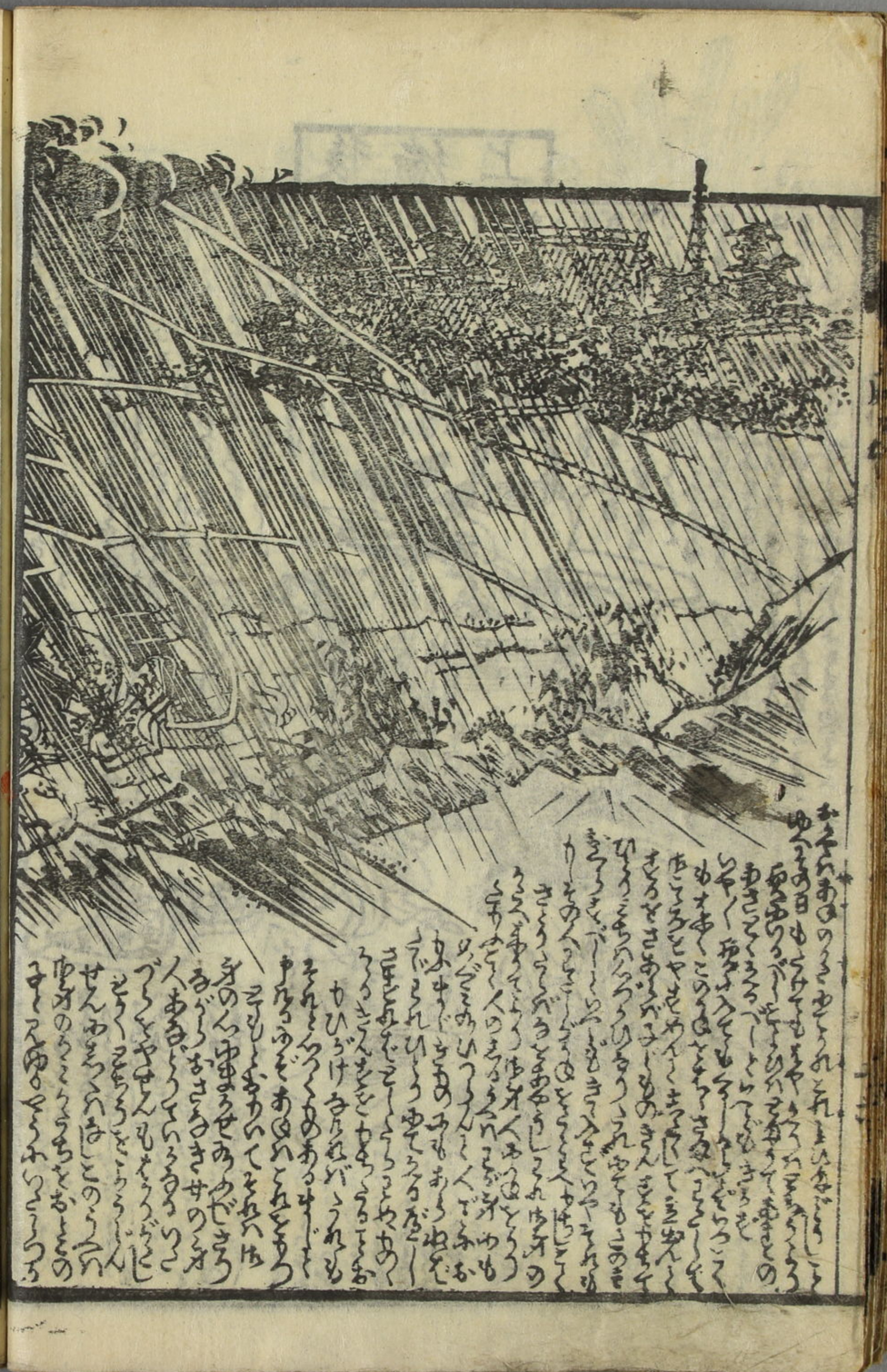


前編三冊終

此後編三冊業有之人
第後出之可見之
ろくくあれをくれてあるら
板りく

後編上





後編中

「やろうるうるうるうるけあぐ
あんるぐるけうがんぐ
ゆうぐるるるるるう
うとこるるう
あれぐるるう
るるるあるぐ
あるう」

「うれるう
どうんもとの
ふれのへ
るこぬて
ふるう
ぐべる」

後編下

関埜太郎岩穴

木曽道中

細久手
みさけ　三里

山あり谷あり人おりのまつふる人のうさきとちうちうこうこうのうみとおびゝえ〳〵あやさうえるうう
うもひきうみてうんうくあん
あくあううこのくとアとこうのくとさしあげ
りれをしぐるくれものはきこゑ
つるくめまるとどんくの
きうとちいちはうは
あてとその

あやうけうれ
まくふうん
めびしきうう
あんうとそ
あやうう
めんのう
しん
あく
しき
この
ゑ
みうは
そう
ぞいうき

塚首鬼手縄捕

こうけい　依田人　一里

此宿不児坂の
うちより。不児
川まで。捕方ハて
そうきうりて
あり鬼のびづて
いうちりせきこの
ちくくふ見のく
びを彩ふおるそ
かけふ入るると
為ひりふぬふま
てその首安り
安ちりくうり今の
力ふおよなぞ
ついふてふ捉ち
つうとそくちふの
首ぐらとうり
又その捕とをそ
うるこころて捕
ありてくりふとぞ
ふ名ろ毛申記ふ
ゑくうり

べーこの
てゆぞう
さあを付
られ
ふろ
ちん
し

あんらくみこ
けるえうるう
ちもりくうん
ときこうるせし
ひうるれ
くう附うて
このふふ分
きてやう
つうとき
ゆんこと
んまうう
をしそ
おやきて
ゑもゆき
まりてん
とうを

こうきう
ざしふびん
ゑれとえきう
きもあるすぐ
そもりふまう
やてまで　やきこうう
よありうさせおのくるは
ひうこうくうきみうう
ゆきんなぐこうきくうる
やてうくく

関野太郎物語大尾

文化辰初夏稿成
己巳孟春發行
甘泉堂版

十返舍一九編
勝川春扇画

東京大学

文化六年己巳春新版

小稲半兵衛 山東京傳作 全部
夜之鶴親父形氣
歌川豊国画 八冊

於夏清十郎 山東京傳作
風流伽三味線 全十冊
勝川春亭画

釣鐘弥左衛門 曲亭馬琴作
奉加助大力 全十冊
歌川豊廣画

文武火茶釜花香仇討 曲亭馬琴作 全七冊
勝川春亭画

火津嶋鬼ケ嶽 十返舍一九作 全部
復讐和布刈海門
勝川春亭画 八冊

復讐関太郎物語 十返舍一九作 全六冊
勝川春扇画

孝行酒屋譽剣菱 山東京山作 全七冊
歌川豊国画

復讐猫股橋由来 関亭傳笑作 全七冊
勝川春扇画

右のこと出板奥出ーヶい
芝神明前
和泉屋市兵衛板